

学校だより・あすなる

校長 田崎俊一郎



体験活動の重要性！

先週の木曜日と金曜日に、5年生は野外宿泊学習を行いました。今年度より、佐世保青少年の天地に場所を移し、オリエンテーリングや野外炊飯にチャレンジしました。宿泊学習の目的は、普段できない体験を通して学ぶことにあります。メディアから離れ、自然の中で生活することのすばらしさを感じることや日頃の自分たちの生活がいかに便利であるか体感することができると思います。

世の中はバーチャルな時代です。インターネットやテレビ等で感覚的に学ぶ「間接体験」や「疑似体験」が子どもたちの周りに溢れています。機会をとらえ「直接体験」を位置付けることで、「間接体験」と「直接体験」のバランスをとり、間接と直接が経験を通して子どもの中でつながることが大切だと考えます。社会の状況を考えて、人やもの、実社会と実際に触れる機会を設けることは今後益々重要になってくると思われます。学校でも、さまざま体験活動の機会を積極的に設けていきます。



発見！いい声！

“挨拶がすばらしいです”毎朝、通学路で見守りをしてくださっている地域の方が褒めてくださいました。北小学校の周辺は交通量が多いへん多く、事故がおきないかとても心配です。有難いことに、毎朝“田平地区見守り隊”の方がたくさん横断歩道に立ち、子どもたちの登校をサポートしてくれています。その見守り隊の一人の方が「毎朝登校してくる子のあいさつがとても上手です。きちんと立ち止まって、深々と挨拶をしてくれます。」と話しておられました。とてもうれしく思いました。

挨拶という言葉の意味を調べてみると「挨」は心を開く、「拶」は近付くという意味があるようです。つまり、挨拶とは「心を開いて、相手に近付くということ」です。先ほどの話にもあるように、しっかりと挨拶ができるということは、互いの心の距離が縮まったということになります。北小では、“あすなる”運動をおこなっていますが、あすなるの“あ”は、“元気な挨拶をする”です。相手の気持ちを意識して挨拶をし、「元気が出るな。」「なんだか気持ちがいいな。」と思えるよう今後も指導を続けていきます。

北っ子の心を見つめる教育週間

6月8日(土)から14日(金)は、「北っ子の心を見つめる教育週間」です。この取組は、平成16年から行われている「長崎っ子の心を見つめる教育週間」に関わるものです。学校と保護者、地域の方が連携して子どもたちの思いやりの心の育成、挨拶などのマナーの向上を目指す取組となっています。本校では、6月8日からの1週間、学校開放日を設定しています。この機会に、ぜひ子どもたちの様子をご覧ください。